



魚類調査といえば投網。使い手のテクニクが如実に結果に現れる玄人好みの漁具。それが投網。

投網とは簡単に言えば、魚の居そうな場所に被せるように打ち、網の開いた範囲にいる魚を一網打尽にしてしまうというものです。見た目の仰々しさから、打つのは難しそうと思われることが多いですが、実は1～2時間も練習すれば十分に開かせて打つことが可能です。しかし、本当に難しいのは実際に魚を捕るために打つときです。

そこで気づかされるのが、投網を打つ技術と同様に、ポイントへのアプローチがいかに重要かということです。魚は上から迫り来る影に対して非常に敏感で、投網が着水する前に逃げてしまうこともしばしば。また、その着水音も魚をかなり驚かせます。ということは、同じ場所でのやり直しは効かないと言うことで、狙った場所は一

ある日のフィールド・ノートから

はじめが肝心

発でしとめなければいけません。そのためには、殺気を押し殺して、岩となり、ヨシとなってポイントに近づき、素早くかつ静かに投網を打つ必要があります。無駄な一投はその後の二投目、三投目をも無駄にしてしまいかねないのです。

ただ、時と場所によりますが、投網には「数打ちゃ当たる」という側面も若干あります。また、場所を荒らして魚の付き場がゴチャゴチャになってしまっても、ただの魚取りであればそれでよいかもしれません。しかし、調査でそういうことをしてしまうと、結局

は「何が居た」ということしか解りません。私たちが欲しいのは、往々にしてその川にいる魚達がどういう場所を好んで棲みかや餌場、隠れ家としているかというデータです。それを得るためには、慎重なアプローチと適切な漁法（タモ網、セルピン、定置網等々）の選択が必要になってくるのです。本音をいえば、漁具など使わずに川に潜って見てくるのが理想なのですが...残念ながら万能ではありません。

この仕事をしていると、動物たちと会話できるエディーマーフィー扮するDr.ドリトルを心底うらやましく思います。当然そんなことが出来ない私たちは、川に棲む魚達の素の姿を垣間見るべく、これからも様々な漁法や観察方法を駆使しつつ頭を悩ませていくのです。

(大阪支社自然環境調査室・福田 宏)

ご意見 ご質問 お待ちしております

素朴な疑問やご感想など下記のアドレスまでお寄せください。お待ちしております。

E-mail :nl-info@chiikan.co.jp

編集後記

私の田舎では、秋の休日ともなるとあちこちで芋煮会が行われます。(これって食欲の秋ですけど...)。先日、深大寺植物公園に行って来ました。「これぞ秋!」というものを見て感動したのがありました。「見事なススキ!」と思い、駆けて行くとシロガネヨシのこと。月夜の晩にシロガネヨシってとっても風情があります。一度見に行ってみては? (鈴木志保子) 先日、4歳になった姪が「ねえ、見て見て!」と駆け寄ってきました。「ほらっ」と小さな手を開くと、そこにはドングリが一粒。「さえちゃんの宝物なんだよ。」とドングリをそとでながら見せてくれました。ドングリの楽しみ方はいろいろ。飾ったり、転がしたり、食べたり、笛にしたり...。芽生えも可愛らしく、秋になるとつい拾ってしまいます。今度、姪と一緒にドングリ拾いに行こうかな? (高岡由紀子)

News Letter NO.12 2001年11月

【発行】.....株式会社地域環境計画

発行人.....高塚 敏

編集...中山香代子・伊藤 透・鈴木志保子・高岡由紀子

東京本社 〒154-0015
東京都世田谷区桜新町2-22-3 NDSビル
TEL 03-5450-3700 / FAX 03-5450-3701
営業窓口...鈴木志保子・伊藤 透・高岡由紀子

大阪支社 〒569-1123
大阪府高槻市芥川町1-15-18 ミドリ芥川ビル
TEL 0726-84-3182 / FAX 0726-84-3184
営業窓口.....中山香代子

北海道支社 〒001-0017
北海道札幌市北区北17条西5-20-303
サンオービル1F
TEL 011-717-8001 / FAX 011-717-8021
営業窓口.....中島正雄